

新病院建設「勤医協基金」目標の2億円達成しました！

岐阜勤労者医療協会 専務理事 大橋 正和



2022年3月から開始したみどり病院新築移転のための勤医協基金は、3年間で2億円のご協力をお願いとして岐阜健康友の会とともに取り組んできました。

2025年3月末時点で、勤医協基金と寄付金を合わせ2億2530万円のご協力をいただくことができました。岐阜健康友の会会員のみなさまに深く感謝申し上げます。

会員のみなさまより無利息でお借りしている勤医協基金ですが、現在約2000名のみなさまからご協力をいただいております。法人経営の大きな支えとなっております。

今回のような大型投資の際にかぎらず、安定した経営を継続していく上でも、引き続き勤医協基金のご協力をお願いいたします。

これからも、「差額ベッド料を徴収しない」「無料低額診療制度が使える」「無差別で公正な医療・介護・福祉を提供することで地域のみなさまの健康・いのち・くらしに貢献してまいります。

1月より歯科（すこやか診療所歯科）がオープンしました。外来診療だけでなく、ご自宅への訪問診療もおこなっております。ぜひご利用ください。

今年で56年目の華陽診療所を紹介します

華陽診療所 事務長 松田 英史

華陽診療所は名鉄加納駅から東に徒歩5分、岐阜市祈年町に位置し、地域密着型の医療を提供する医療機関です。同じ建物の中にはデイサービスきねん、介護保険相談センターかようがあり総勢22名の職員が働いています。

華陽診療所では、地域の皆さんの健康維持と向上を目指し、さまざまな医療サービスを提供しています。特に慢性疾患の管理に力を入れており、高血圧や糖尿病など長期にわたる治療を必要とする疾患に対して、患者様一人一人にあった治療プランを立て、継続的なフォローアップを行っています。

また、急性疾患にも対応しており、風邪やインフルエンザ、急な発熱や腹痛など、予期しない症状にも迅速に対応できる体制を整えています。岩井雄司所長はじめ医師を中心に、看護師、事務職員がチームとなり、患者さんの症状や状態をしっかりと把握した上で、最適な治療を行うことを心がけています。地域の皆様が気軽に訪れ、安心して医療を受けられるよう、温かい雰囲気の中で診療を行っています。また、みどり病院とも密に連携しており、診療所では出来ないCT検査やMRI検査なども診療所からみどり病院へ予約を入れ、迅速に行うことができます。



また、急性疾患にも対応しており、風邪やインフルエンザ、急な発熱や腹痛など、予期しない症状にも迅速に対応できる体制を整えています。岩井雄司所長はじめ医師を中心に、看護師、事務職員がチームとなり、患者さんの症状や状態をしっかりと把握した上で、最適な治療を行うことを心がけています。地域の皆様が気軽に訪れ、安心して医療を受けられるよう、温かい雰囲気の中で診療を行っています。また、みどり病院とも密に連携しており、診療所では出来ないCT検査やMRI検査なども診療所からみどり病院へ予約を入れ、迅速に行うことができます。

地域の皆様、今後ともよろしくお願ひします。お困りごとは華陽診療所までお気軽にご相談下さい。

「リニューアルから1年」

みどり病院 事務長 中尾 美絵

昨年5月1日に移転し、早1年が経過しました。職員は、新病院の最新機能に慣れるまでしばらく時間がかかりました。患者様、地域の皆様にとっても、利用にあたってご不便おかけいたしました。ご意見や改善提案を投書箱や健康班会などを通じてお寄せ頂きました。誠にありがとうございます。

●感染対策エリアを外来・病棟にて明確化
 ●入院ベッド99床のうち個室を6床から33床に増加
 ●4床室を含め、すべての入院ベッドに窓を設置
 ●待合室や病棟食堂などに岐阜県産材ブナの家具を岐阜県の補助金で設置
 ●環境省の補助金を活用し遮熱効果の高い外壁、窓、太陽光発電を設置
 ●太陽光発電から蓄電できるようにし、災害時対応に役立つ部屋を確保
 など、リニューアルを参考にいたしました。皆様からお預かりしております勤医協基金のご協力

もあり、上記の通り旧病院から改善することができました。誠にありがとうございます。移転後は、救急車受入台数（入院含む）は前年より倍増し、光熱費も予算内で推移できています。

今後、地域の皆様に知って広めて頂きたい取り組みは、「透析治療（血液透析、腹膜透析）」と「食を大切にしたい療養、健康維持、認知症予防（医科・歯科・介護連携）」です。健康班会などで知って頂く機会を増やしたいと思っています。引き続き、勤医協基金へのご協力もお願い致します。

健康 春秋

2023年7月28日各務原市が、会見で『市民の半数にあたる約72,000人の水道水を供給している三井水源の地下水から、測定を開始した2020年11月以降、国の暫定目標値を超えるPFASが検出され続けている』ことを公表しました。▼その後、岐阜県民医連は、地元の方々の要望に応えるべく、京都大学の研究に協力し、23年秋131名、1年後の24年秋フォロー83名、子ども20名に、PFAS血中濃度を測定しました。その結果、三井水源の方の平均血中濃度は、基準値の3倍と判明、市が対策を試みたといいますが、1年後にも、血中濃度がほとんど減少していませんでした。▼私たちは、県や市に対して、無料で血中濃度測定、健康診断、相談会などを要求しています。それが、検査をする必要がない、検査をすることで、住民を不安に陥れる」と積極的な取り組みをしようとしません。健康診断を受けることによってPFASで起こりうる健康被害を最小限に食い止めることができるにもかかわらず、行おうとしません。▼PFASは他人事ではありませんが、生活の中にもたくさん存在しています。地下水が注目されていますが、土壌汚染によるもので、本来は、除染が必要です。産業廃棄物を使って埋め立てられた土壌汚染、あるいは、産業処理場から、地下水脈を通じて流れてくる可能性もあるとすれば、各務原だけではなく、どの地域でも水道水が汚染される可能性があります。水質基準においても、研究から導き出される基準値は、国の50ng/Lではなく、0.25ng/Lと厳しい基準値の策定が求められます。▼とにかく、10年以上にわたり、体内にとどまる可能性のあるPFASへの対応を今後とも行政に強く求めていかなければなりません。すべての水源の調査、住民の健康調査の実施を要望していくとともに、長い年月取り組み覚悟が必要です。(M)